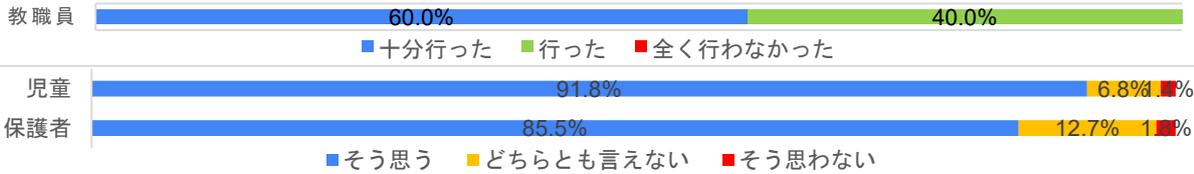


令和7年度後期学校評価 教職員・児童・保護者アンケート結果

			十分行った	行った	全く行わなかった
1	地域と連携・協働した教育活動の推進	教職員	60.0%	40.0%	0.0%
			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
		保護者	85.5%	12.7%	1.8%
		児童	91.8%	6.8%	1.4%



- 教職員は前期・後期ともに全員が「行った」と回答した。前期と比較して「行った」という回答は、保護者は1.8ポイント上昇し、児童は6.1ポイント上昇した。
- 防災フォーラムの実施や、地域人材を活用した地場産業に係る体験学習の取組などを通し、児童保護者ともに地域との繋がりを実感できた成果と考えられる。
- 次年度は、引き続き地域と連携した防災教育を推進するとともに、地域人材を活用した地域学習を充実し、その成果について、学校便りやホームページ等で発信するとともに、保護者公開を検討する。

			十分行った	行った	全く行わなかった
2	児童の学習状況の把握と授業改善	教職員	71.4%	28.6%	0.0%
			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
		保護者	65.5%	32.7%	1.8%
		児童	87.7%	11.0%	1.4%



- 教職員は前期・後期ともに全員が「行った」と回答した。前期と比較して「行った」という回答は、保護者は8.9ポイント低下し、児童は5.6ポイント上昇した。
- 今年度は渡島教育局の授業改善プロジェクトに通常学級で授業をする全教諭が参加し、授業改善を進めてきたところだが、その成果について保護者に十分伝わっていなかったと考える。
- 次年度は、今年度から始めた児童による授業アンケートを継続して実施し、その結果や校内研修の取組について、学校便りやホームページ等で発信する。

			十分行った	行った	全く行わなかった
3-①	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	教職員	71.4%	28.6%	0.0%
			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
		保護者	76.4%	21.8%	1.8%
		児童	71.2%	26.0%	2.7%



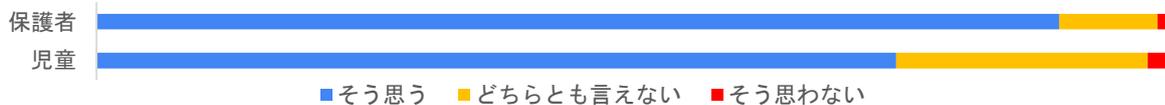
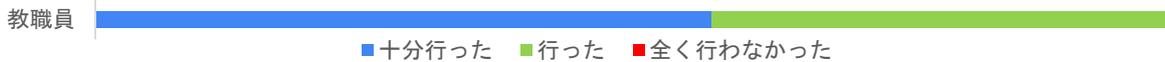
- 教職員は前期・後期ともに全員が「行った」と回答した。前期と比較して「行った」という回答は、保護者は7.3ポイント低下し、児童は5.7ポイント低下している。
- 学習活動の充実に向けた取組が進む一方で、学びの深まりを実感しにくい場面が相対的に目立つようになったことが考えられる。
- 次年度は、児童が学びの深まりを実感できる活動の工夫や、保護者への学習意図の共有をさらに充実させる取組を推進する。

			十分行った	行った	全く行わなかった
3-②	学習活動の位置づけを工夫した授業改善	教職員	50.0%	50.0%	0.0%



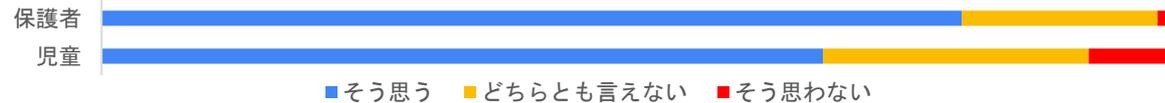
- 本項目は教員のみに実施し、全教員が行ったとしており、前期と比較して「十分行った」の回答が16.7ポイント上昇した。
- 授業改善の取組が一定の成果を上げていることがうかがえる。
- 次年度は、児童が学習活動の意味を理解できるよう、「どんな学びになりそうか」を考えさせるとともに、活動後に「見通しと比べてどうだったか」を確認する場面を確実に位置付けることを授業改善の柱の一つとする。

			十分行った	行った	全く行わなかった
4	学習習慣定着のための手立て	教職員	57.1%	42.9%	0.0%
			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
		保護者	89.1%	9.1%	1.8%
		児童	74.0%	23.3%	2.7%

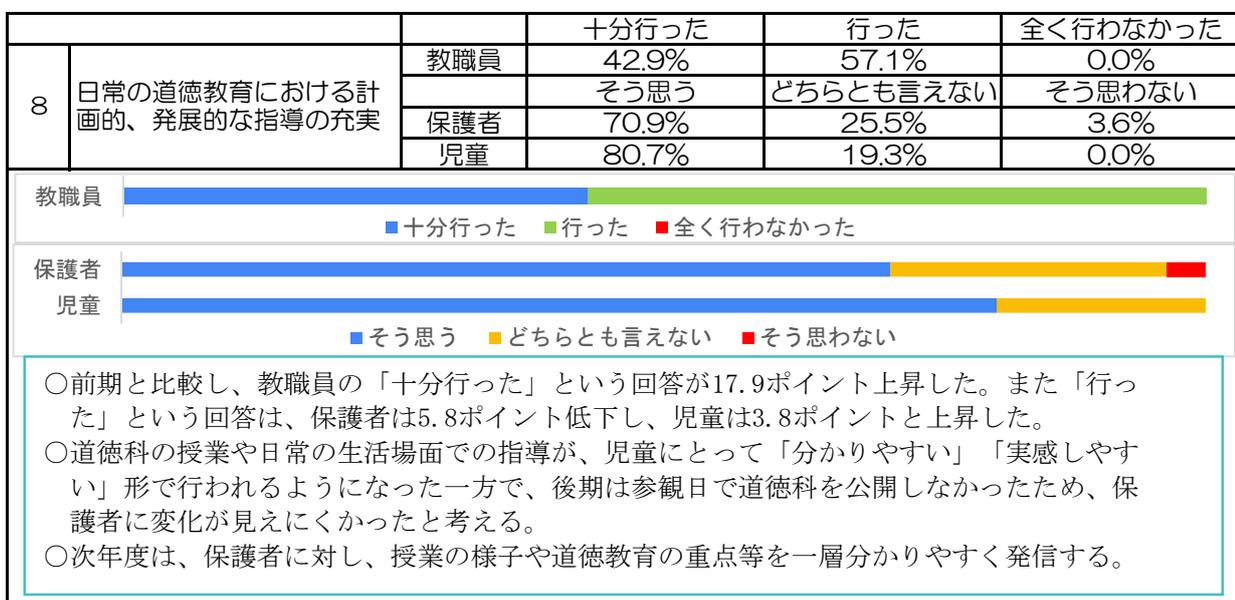
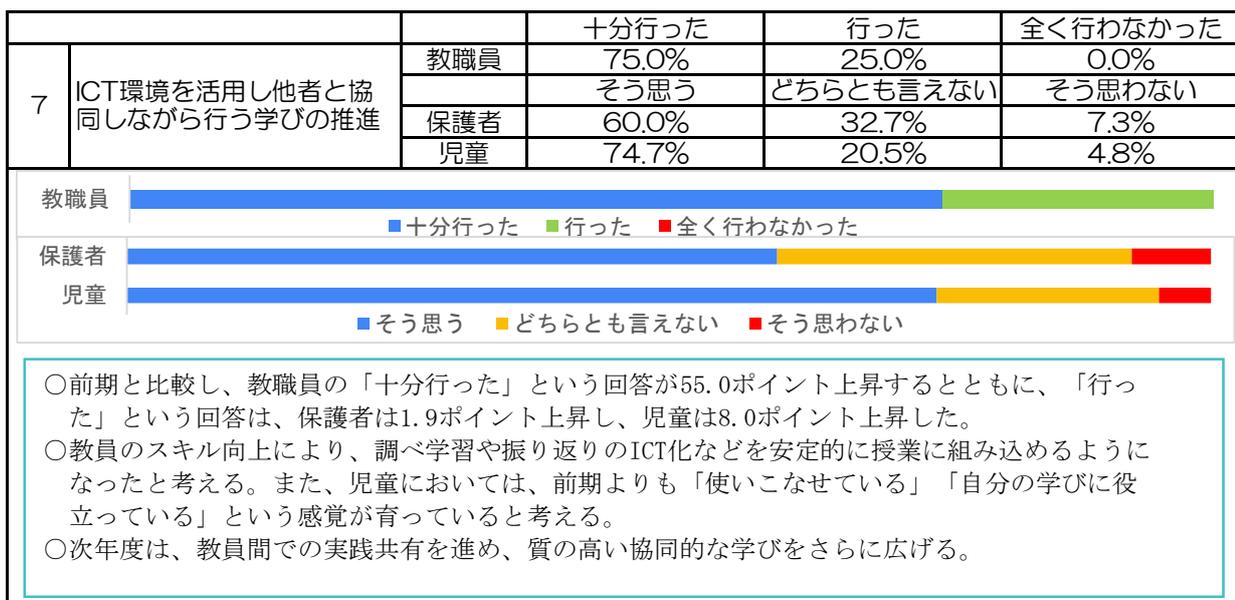
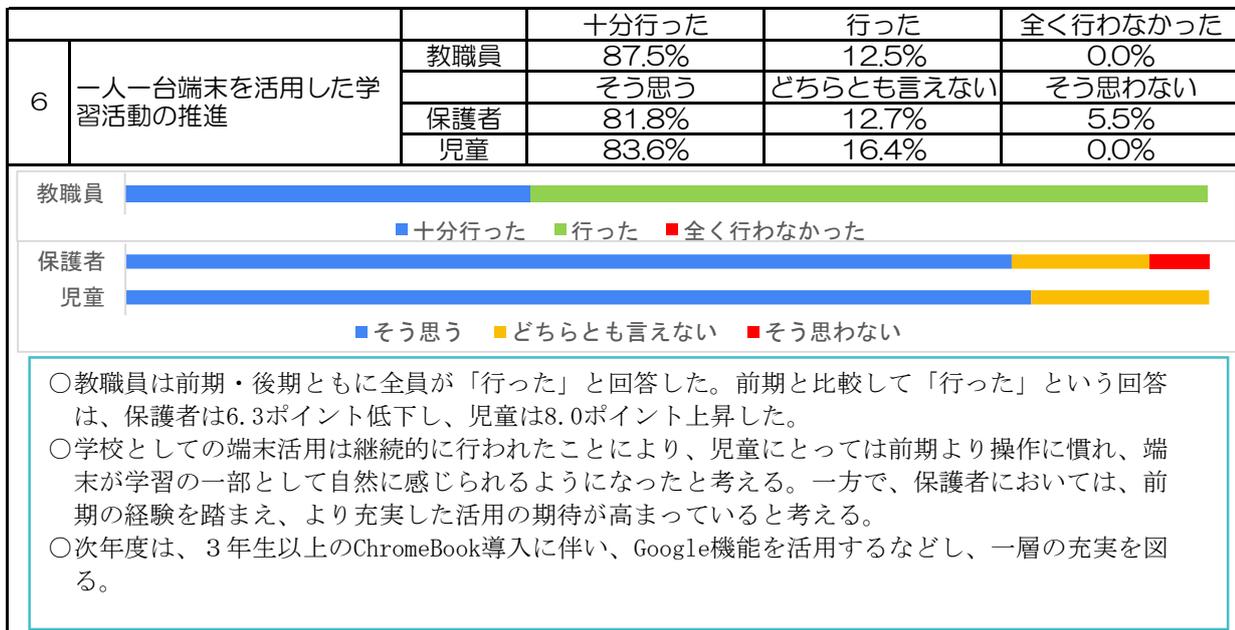


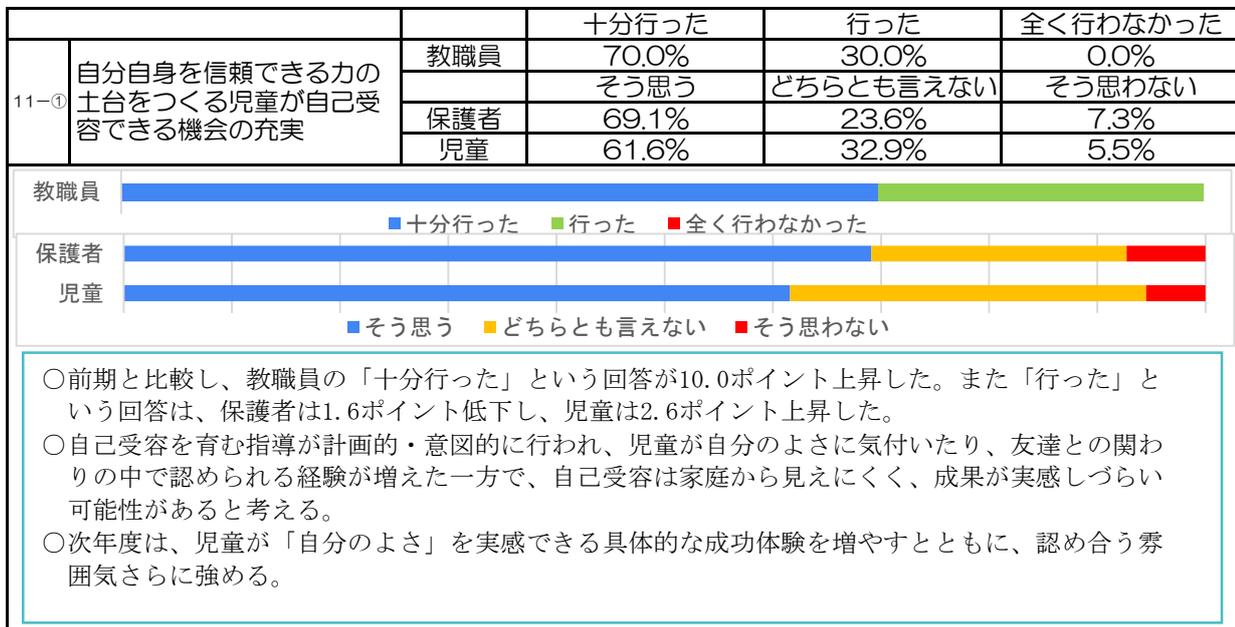
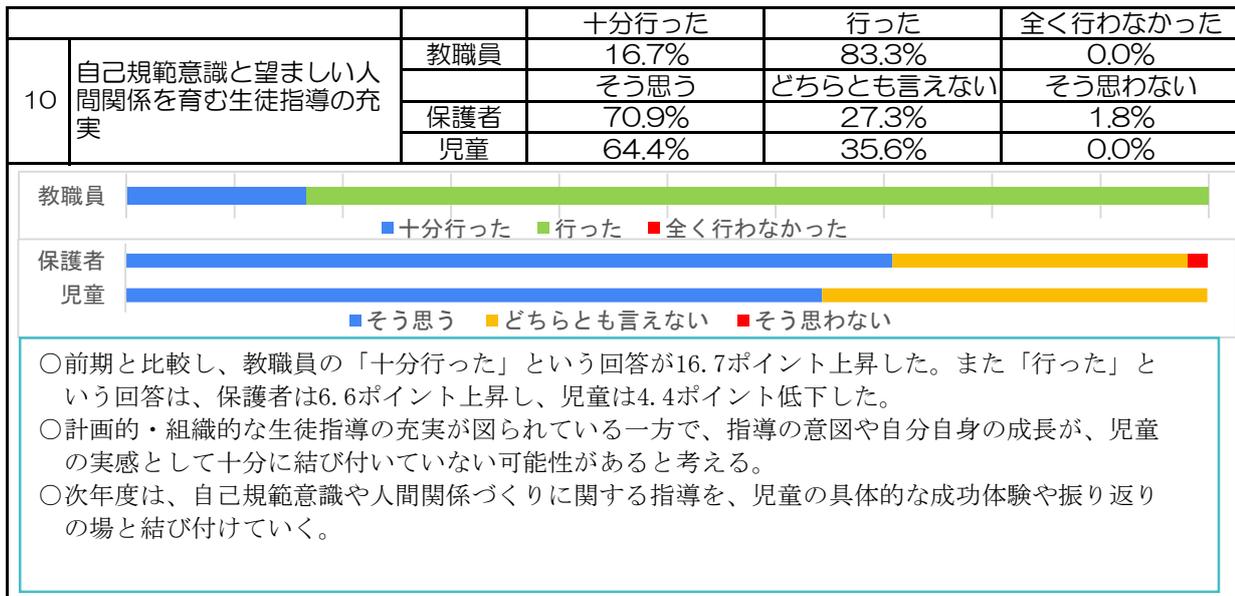
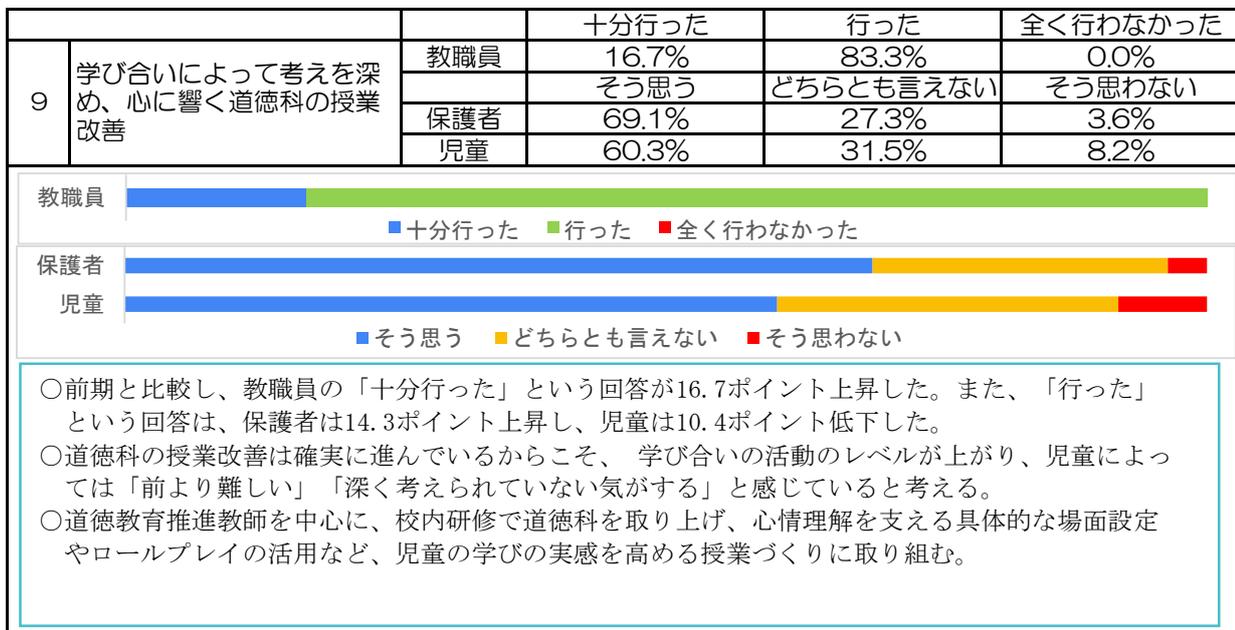
- 「行った」と回答し割合が、前期と比較して教職員は11.2ポイント上昇、保護者は7.7ポイント上昇、児童は6.8ポイント低下した。
- 学習のきまりの徹底やAIドリルの活用、家庭学習ノートの展示など、学校としての取組の量は維持されているが、児童の実感や主体性が十分育っていないことが窺える。
- 次年度は、児童がつまずきを克服できたと実感できる取組の工夫をするとともに、児童が主体的に選べる学習メニューを設定するなど内容の充実を図る。

			十分行った	行った	全く行わなかった
5	主体的な学習習慣の形成	教職員	28.6%	71.4%	0.0%
			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
		保護者	80.0%	18.2%	1.8%
		児童	67.1%	24.7%	8.2%



- 教職員は前期・後期ともに全員が「行った」と回答した。前期と比較して「行った」という回答は、保護者は1.4ポイント上昇し、児童は0.4ポイント上昇した。
- 家庭での支援や声かけがより広がっていることが窺える一方で、児童によっては「やらされている感」を感じ、取組の意図を理解できていない状況もあると考える。
- 次年度は、児童が「自分でできた」と実感できる場面を増やし、取組の意味付けを丁寧に行うことで、主体的な学習習慣の定着をさらに促していく。





			十分行った	行った	全く行わなかった
11-2	毎日の個人目標の設定と振り返りを徹底する日誌の取り組み	教職員	62.5%	37.5%	0.0%

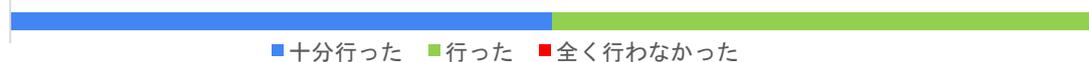
教職員



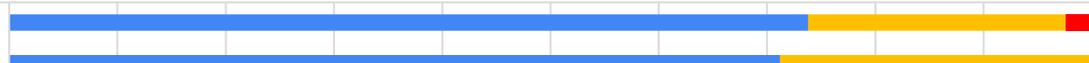
- 本項目は教員の実施、全教員が行ったとしており、前期と比較して「十分行った」の回答が18.1ポイント上昇した。
- 今年度から日誌の取組を始めたため、学年によって指導の程度に差があることから、教員間で実践交流を行い、改善していく必要がある。
- 次年度は、児童が自分の変容に気付くことのできるよう指導の充実を図る。

			十分行った	行った	全く行わなかった
12	ふるさとの魅力を知り、発信する総合的な学習の充実	教職員	50.0%	50.0%	0.0%
			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
		保護者	73.8%	23.8%	2.4%
		児童	71.2%	28.8%	0.0%

教職員



保護者



児童



- 前期と比較し、教職員の「十分行った」という回答が16.7ポイント上昇した。また「行った」という回答は、保護者は2.0ポイント低下し、児童は4.7ポイント低下した。
- 地域素材の活用や外部講師との連携が図られるとともに、発信活動（まとめ、プレゼン、交流）を意図的に組み込めるようになるなど授業改善が進む一方で、児童にとって地域学習の内容が抽象的で、自分事として捉えにくい面があったと考える。
- 次年度は、教員間での授業デザインの共有を進め、児童の実感を高める工夫を広げる。

			十分行った	行った	全く行わなかった
13	目標に向かった体力づくりの推進	教職員	80.0%	20.0%	0.0%
			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
		保護者	76.4%	20.0%	3.6%
		児童	76.1%	21.1%	2.8%

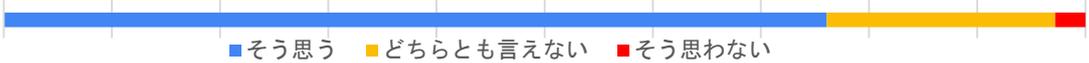
教職員



保護者



児童



- 前期と比較し、教職員の「十分行った」という回答が42.5ポイント上昇した。また「行った」という回答は、保護者は0.2ポイント上昇し、児童は1.7ポイント上昇した。
- 体育科だけでなく、休み時間・朝活動・学級経営など、学校全体での取組が広がった一方で、活動が日常化し、特別感が薄れている可能性があると考え。
- 次年度は、記録を見直す機会を定期的にもち、主体的に体力づくりに取り組むことができるよう指導の充実を図る。

			十分行った	行った	全く行わなかった
14	ICTを活用した体育科の授業改善	教職員	60.0%	40.0%	0.0%
			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
		保護者	10.7%	85.7%	3.6%
		児童	79.2%	18.1%	2.8%

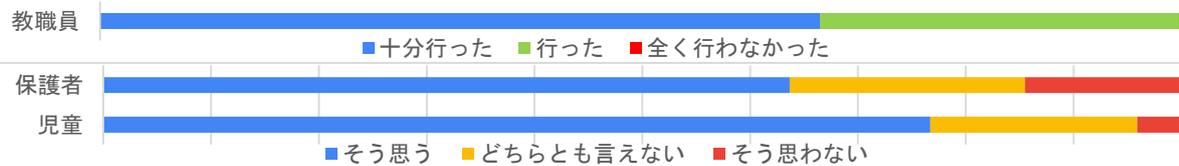


○教職員は全員が行ったとし、前期と比較し「十分行った」という回答が31.4ポイント上昇した。また「行った」という回答は、保護者は44.1ポイント低下し、児童は6.1ポイント上昇した。

○ICTを活用した運動の見取りなどの授業改善が進む一方で、体育科でのICT活用は学校内で完結するため、家庭での実感が得にくい可能性があると考えます。

○次年度は、体育科の授業における動画活用等の具体例や学習効果などを積極的に公開し、保護者理解を深める。

			十分行った	行った	全く行わなかった
15	マラソン、水泳、休み時間などによる運動習慣の定着	教職員	66.7%	33.3%	0.0%
			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
		保護者	63.6%	21.8%	14.5%
		児童	76.7%	19.2%	4.1%



○教職員は全員が行ったとし、前期と比較し「十分行った」という回答が33.4ポイント上昇した。また「行った」という回答は、保護者は1.2ポイント上昇し、児童は11.3ポイント上昇した。

○年間を通じた運動習慣づくりが計画的に実施されたと考える。

○次年度は、特に、運動が苦手な児童にも成功体験が得られる活動を増やす。

			十分行った	行った	全く行わなかった
16	健康を自己管理できる自律的な生活習慣の確立	教職員	28.6%	71.4%	0.0%
			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
		保護者	52.7%	36.4%	10.9%
		児童	43.8%	43.8%	12.3%



○教職員は全員が行ったとし、前期と比較し「十分行った」という回答が15.9ポイント上昇した。また「行った」という回答は、保護者は6.5ポイント低下し、児童は7.5ポイント低下した。

○学校での生活習慣の指導を計画的・組織的に強化したものの、実態として、家庭において就寝時刻やゲームの時間などに乱れがあると考える。

○次年度は、引き続き、望ましい生活習慣の重要性を家庭と共有しながら学校全体で統一した指導を行う。

17	地域と連携した防災教育の充実				
			そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
		保護者	74.5%	23.6%	1.8%
	児童	94.5%	5.5%	0.0%	

■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない

○本項目は保護者及び児童のみに実施し、前期と比較して、「行った」という回答は、保護者は8.4ポイント低下し、児童は3.6ポイント上昇した。
○防災バスツアーや防災フォーラムなど、地域の方を巻き込んだ防災教育を充実したが、後期は高学年のみの取組となったため、特に、保護者の肯定的な回答が低下したと考える。
○次年度は、今年度の防災フォーラム等の取組を継続し、今年度の成果と課題を踏まえ、一層の充実を図る。

【記述評価について】

○ノートパソコンをランドセルに入れると約5.5キロになります。水濡れが心配で水筒を入れられません。水筒を入れると6キロを超えます。子供たちの負担を軽減できるよう対策を講じてください。

→学習用端末の持ち帰りに伴うランドセルの重さについて、ご心配の声をいただきました。通学時の負担や水濡れへの不安についてご意見をお寄せいただいたことに感謝いたします。

本校では今年度、端末の持ち帰りの必要性を改めて見直し、学校で保管可能な教材の整理を進めるなど、日々の荷物の軽減に努めてまいりました。

今後も、子どもたちの様子や実態を丁寧に見取りながら、学習効果と負担軽減の両面を大切にしたい運用となるよう、必要に応じて見直しを図ってまいります。

○学校は子どもたちが主体なのかと思いますが、今年度はそうではなさそうな場面も見聞きし、少し残念に思う時もありました。

→本校では、児童が自ら考え、判断し、行動する力を育むことを大切に教育活動を進めておりますが、そのように感じさせてしまったことを真摯に受け止めております。

今後は、日々の授業や行事の在り方を改めて見直し、児童の思いや考えがより生かされる教育活動となるよう、教職員一同努めてまいります。